

★知っておきたい古典の知識

日本は經典きやうてんのような中国の古い書物から文字を得ました。官僚は公文書こうぶんしょを漢文で書くため、学問の基本は漢籍かんせき（中国の古典）を学ぶことでした。やがて、やまとことば（日本に古来こらいからあったことば）を漢字の音を借りて記載きさいする「万葉仮名まんようがな」が生まれ、次いで、ひらがな、カタカナが生まれ、現在の漢字仮名交じり文で日本語を表記するようになりました。

漢字は真名まなと呼ばれ、男性しか使うことが許されませんでしたが、学者の娘や天皇の后きさきになるような身分の高い貴族の娘などは漢詩・漢文を学び、親しんでいたようです。なかでも、唐の時代中頃なかごろの詩人、白居易はくきよい・白楽天はくらくてんの詩文は『白氏文集』として日本でも広く親しまれ平安文学に大きな影響を与えました。

身に付けると…

日本の古典文学の中に息づく中国文学を発見して味わいが深くなります。
大陸の文化が日本の文化に影響していることを感じるができます。

読んでみよう

《口語訳》

（使いの者との）別れに際しては（楊貴妃は）心をこめて繰り返し（玄宗皇帝への）ことづてを頼んだ。

そのことづてのなかに誓いの言葉があった。それは（玄宗皇帝と楊貴妃の）ふたりの心だけが知っているものであった。

（それは）七月七日の（たなばたの夜）、あの長生殿ちやうせいいでんにおいて、

夜もふけてあたりに人もなくふたりでひそかに語り合ったとき、

「天に召された時には、比翼ひよくの鳥となりた
いものだ。地上にいるときには、連理れんりの枝
となりたいものだ。」と（語ったその言葉で
ある。）

天地は永久に存在するものであるが、それがいつか尽つきてしまうことがあってもこの（ふたりの）せつない恋心こいしんは、いつまでも続いて絶たえることはないであろう。

◆漢詩や漢文を日本語に読み下すために、漢字だけの詩文（白文はくぶん）に、訓点くんてん（送り仮名、読み仮名、返り点かえりてん、句読点くとうてん）をほどこして訓読文としました。

訓点のつけ方

★位置と表記が決まっています。

真横にひらがなで読み仮名を書きます。

いまダ

右下にカタカナで送り仮名を書きます。

再読文字さいどくもじは左にも読み仮名を書きます。

未二

左下に返り点を書きます。返り点にはし点や一・二点、上・中・下点、甲・乙・丙点などがあります。

《語句の説明》

《参考にしよう》返り点↓
〔学習プリント（言語）12年④解説〕

比翼ひよくの鳥：雄雌一番が一羽の鳥となつてい
る想像上の鳥。夫婦仲の睦まじい
ことのたとえに使われる。

連理れんりの枝：別々に植わった木が途中の枝から
つながって一本の木となっている
ような想像上の木。恋人同士の強
い結び付きのたとえに使われる。

